

社会福祉法人 友愛十字会

2000

10・1

No. 21

ゆうあい

題字 前総裁 三笠宮崇仁親王殿下



友愛荘開園25周年記念式でご講演なさる殿下

主 な 記 事 (社会福祉法人 友愛十字会 友愛荘開園25周年記念特集号)

- お こと ば……………総 裁 寛 仁 親 王 殿 下
- 記念講演「我が国の福祉」……………総 裁 寛 仁 親 王 殿 下
- お知らせ「法人創立50周年記念式典」の举行



おことば

社会福祉法人 友愛十字会

総裁 寛 仁 親 王

二十五周年誠にめでとうございます。

二十五周年と言いますが、日本では結婚のそれを結婚式と言いますが、外国ではシルバージュビリーと言いまして大変大きなお祝いがあります。あと二十五年経って五十年を迎えたら、ゴールデンジュビリーと言ってこれは大変なお祭りになります。友愛荘も次のゴールデンジュビリー目指して頑張って頂きたいと思っています。

今、理事長が二十五年のお祝いの席にも拘らず、暗いお話を致しましたけれども、私は明るい話をしようと思います。

二十五年前、私が友愛十字会の総裁になって初めての仕事がこの開所式だったと思います。この施設を造ると言う決定が為されたとき、私はまだ総裁ではなかった筈です。父が総裁をやっております、完成してオープンングのため

に伺った時が私の多分総裁就任後の初のいわば公的行事と言うことになります。従って、四分の一世紀私は福祉の仕事をやってきましたので、正に友愛荘の歴史と共にあるわけです。その時のことで一つ覚えているのは、さっきも看護婦さんに確認を致しましたが、当時の友愛荘は、職員の怠慢がそれまでの前例が分かりませんが、全員が同じトレーナーで生活をしていました。

私たちとても仲良くしている日本の老人福祉施設としては、ナンバーワンの博仁会と言うのが青梅にありますけれども、その斉藤邦雄さんと言う亡くなった施設長が大変前向きで斬新なアイデアで老人ホームを経営されていて、その方のポリシーの中に「寝るときは当然寝る格好でなければいけないし、朝起きたら通常の洋服を着なければならぬ。外出するときには、

それに見合った服装をして行くものだ」と、そう言ったメリハリのある日課をホームに入所の方々にもして頂く。これは確かに重度であればあるほど、介護するほうも大変ですしご本人も大変かもしれないけれども、やはり一日と言うものをきちっと目が覚めてから休むまで、或いは寝てからもきちんと考えましようと言うことを斉藤邦雄さんは言っておられた。そこで私は直ぐそれをこの園長さんをお願いをしたのを記憶しております。先ほど確認したら「大丈夫です」と、ちゃんと寝るときには、そういう格好をして、今日も確かに皆さん個性豊かな格好をなさっておられるので、斉藤さんのポリシーがこの友愛荘でも生きていると、誠に嬉しく思います。

さて、今理事長が申しましたように本当に全国区で介護保険の問題等々むずかしい問題がありますけれども、我々は、ただ頂いているお金の中だけで安穩に生きていくのはおかしいわけです。私は、二十五年間柏朋会という会をやって三百六十五日×二十五年間金集めばつかりしてきましたから、そのためにいろいろな工夫をしました。従って、友愛荘がもしも本当に介護

保険で措置費がどんどん削減されるような事があつたりした場合には、自助努力で資金を集めるといふようなことをしなければなりません。

これは、誰かがやってくれるのを待つのではなくて、全員が一致協力してやらなくてはなりません。勿論友愛十字会本部も総裁を先頭に真剣に金集めをしますが、ホームの方々も入所しているご本人もご親戚もご家族も全部動員して、職員の方々も同じことですね、そして今日は市議会の方や市当局の方も来ておられるけれどもそういった全ての人たちが手をつないで資金稼ぎに走る。例えば、その資金稼ぎの方法も沢山あります。我々が既にやっている音楽会で資金稼ぎをするのもあれば、ゴルフのトーナメントで資金稼ぎをする方法もあるし、パザーもあるし映画会もある。それからオークション（競売）と言うのもあります。それからラッフル券を沢山売って充当すると言うこともあります。

どの福祉団体も裕福な福祉団体と言うのは、まず日本では余りないですね。従いまして、皆が本当に汗水垂らして頭をひねって知恵を出し合つて今まで三百六十五日ひたすら資金稼ぎのために頑張っていますから、私は、金集めのため

に父親が止めた時に、あいつは金集めがうまいからと言うことで総裁に推薦されたと思っていますから、いくらでもアイデアとノウハウは提供致しますので、友愛十字会全体としても友愛荘としても、どうかもし今、理事長が言つたようないろいろな問題が本当に起きて来た場合には、皆の力で、くどいようですが自助努力といふことがすごく大事です。そしてその結果として、全体で共に生きると言うことをやっていかない限り我々の福祉と言うものは成り立つていかない。そう言う意味でこの二十五年はとていい節目だと思えますから、第一歩にして頂きたいと思えます。

我々必死になつてサポートいたしますから、皆様さん方も一所懸命になつて自分たちの施設をよりベターにするためには皆さんの努力も必要だと言うことをお願い致します、私のご挨拶に致します。

法人創立五十周年

記念式典の挙行

友愛十字会は、昭和二十五年九月二十五日にハワイの在留邦人の方々のご寄附が基金となつて誕生して、今年で五十年を迎えます。

現在、身体障害者福祉施設五、高齢者福祉施設五、事業施設一、その他の事業を経営いたしております。これまでに賜わつた多くの個人、関係諸団体の方々や先輩諸氏等からのご支援、ご指導に感謝し、更なる事業の充実と発展を目指すため、初代総裁三笠宮崇仁親王同妃両殿下並びに、現総裁寛仁親王同妃両殿下のご臨席を賜わり、下記のとおり、創立五十周年記念式典を挙行させていただきます。

一、日時 平成十二年十一月二十七日（月）

午前十時

二、会場 朝日生命ホール

（JR新宿駅西口徒歩三分）

記念講演 『我が国の福祉』

講師 社会福祉法人 友愛十字会

総裁 寛 仁 親 王

それでは、先ほどの挨拶にもちよつと触れましたけれども、今日の私の話を聞きたいと思つていらつしやる方も結構いらつしやるはずですが、何度も聞かれた方もいらつしやるのでちよつと違つた話をしようと思います。

先ほどの挨拶の中で、介護保険の問題にひつかけて自助努力をしなければいけないという話をしましたけれど、具体的に私たちが二十五年間継続的にどういう風にお金集めをしてきたかをまずお話をして、皆さん方で利用できるものはぜひ利用して戴きたいと思います。皆さん方のご希望があれば、友愛荘のために新たな資金稼ぎの方法を考え出してもいいと思います。私の義母は中央募金会の仕事の一環として街頭募金を戦後ずっとやっていました。あれは我々にとって、少なくとも戦後の募金活動のスタ

ートだったような気がします。渋谷のハチ公前であるとか、様々な所に義母を中心にヴォランティアの人が立ちまして、街頭を歩く人たちから十円……そして「赤い羽根」をあげるというようなことを始めたんですね。

この「赤い羽根」というのも日本人が始めたすばらしい募金活動のスタイルでして、ご存知の方もいらつしやるかもしれませんが、あれは最初募金に対する証拠といひましようか、見返りのために一番手っ取り早くかつ格安で手に入るといふので鳥の羽というものを考えたらいいんです。けれども、色を何にするかで随分問題になったらしいんです。終戦直後ですからどうしても「赤」というのは共産主義の「赤」ということで嫌がる人もいたんだそうです。高松宮殿下が「くだらないことをゴタゴタ考える

な」と「一番目について綺麗な色だ、それに決定しろ」と、こういう鶴の一声があつたようです。そしてあの「赤い羽根」というのが決まつたようです。

この話に関連して私はとても素敵だなと思うのは、我々小さいときから「赤い羽根」というものはある時期が来ると皆老若男女関係なくお金を供出しやっていたわけですね。今ではグリーンの羽もあるみたいですし、様々な似て非なるものが現れましたけど、昔は「赤い羽根」一本でした。

ずっと後の話ですけど、ノルウェーに行く用がありました。このノルウェーに行った理由というのは、ちょうど二十年前に我々スキー教師たちの「世界スキー指導者会議」という、四年に一回オリンピックの様に行われる、我々にとっては最も大きな発表会が、蔵王で開催されました。その時我々は八種類の指導法を発表することになりました。その一つに「身体障害者のスキー指導法」というのを私がチーフで組み入れて発表しました。その時はプロのスキー教師、アマのスキー教師、学校関係のスキー体育教師の方々が二十三国から三千人ほど集まりまし

だが、「障害者のスキー指導法」を発表したのはわが国とノルウェーだけでした。

ノルウェーは何をやったかというところ、あちらは北欧ですからクロスカントリーという距離競技、「ノルディック」と普通我々言いますが、「ジャンプ」と「複合」と「距離」があの国のお家芸なんです。当然のことながら距離競技の種目を取り上げて、なおかつ視覚障害者の距離競技の指導法を発表しました。

私は上から下へ滑るアルペン競技のスキー教師ですから、様々な障害を持つ人々をデモンストレーターに要請して六十七名のデモンストレーションを雪上でやったわけです。ノルウェーは視覚障害のいろいろな年齢別の選手にガイドが付いてクロスカントリーをデモンストレーションしたわけです。

そこで私の方で二十三カ国の中で二カ国だけが障害者関係のスキー指導法を発表したので、お互いに意見交換しようということでお茶に呼びました。その時向こうは実に用意がいいことに、私宛の手紙を監督さんが持っておられました。何だろうと思って読みましたら、その当時私は知りませんでした、ノルウェーでは

視覚障害者の距離競技の世界大会を既にその時点より十年ほど前からバイトストレーンという所でやっていた。そこへの招待状だったんです。そして二カ月後の大会でしたので、私はとてもそんな短期間で外国に行けません。そこで日本で一番身障スキーには理解があつて、既にスキー合宿の歴史を持っている大阪市の民生局長にすぐ電話を入れて、やつつけ仕事ではありませんが私たちが教えたアルペンの生徒さんたち



に急遽クロスカントリーを教えて二人派遣しました。これが一番最初になりました。

そうこうしているうちに私にノルウェーへどうしても来いという、アーリング・ストウダールという全盲の福祉界の大ボスがいきました。その人から呼ばれて私が行くことになりました。

確か三年か四年後だったと思いますが、その時にこのわが国の「赤い羽根」の話を聞く事になります。ストウダールさんはノルウェーの福祉界の大ボスで、大変おもしろい人でした。残念ながら数年前に私と同じ癌で亡くなってしまつて誠に残念なんです。電話一本で国王陛下とも会話してしまうという変わった男でありました。日本人ではちよつと考えつかないような大変な実力者なんです。それでいて芸術家でした。アコーディオンも弾くし、ピアノも弾くし、歌も唄つてしまふし、そしてクロスカントリーでも一所懸命走つてしまふ、そういう大変な現場監督兼組織の長としてノルウェー中の人が知っている著名人でした。

ともかくその彼が私に教えてくれたんですが、彼はバイトストレーンという世界大会をする場所にどうしてもヘルスポーツセンターを作りたいかつ

たんですね。障害者のスポーツセンターです。

それを彼が考えて、あらゆる所に話を持ちかけたそうですが、福祉の先進国と言われている国情のノルウェーもスウェーデンもデンマークでもなかなかお金は集まらなかったんだそうです。

そこで彼はロータリアンだったので、ロータリアンクラブの仲間に向かて話をしているときに、日本では変わった金の集め方をしているそうだと、十二月ぐらいになると全国区で「赤い羽根」を一般の人たちに路上で売って、その収益を皆まとめてそれを全部福祉のために使う、そういうシステムがあるらしい、それで成功しているらしいよとロータリアンがストウーデルに教えたらしいんですね。そうしたら大変積極的な人ですから、それではすぐ日本のロータリアンを紹介してくれということになりまして、どなたかちよつと分からないんですが、ともかくノルウェーのロータリアンクラブの方が日本のロータリアンクラブの方に話をつけたようです。

またその日本のロータリアンが素敵だなど思いますが、ストウーデルの所に四百万本の「赤い羽根」を送ってきたそうです。四百万本というのは当時のノルウェーの全人口を越える

数の「赤い羽根」が送られてきたらしいのです。

そこで彼は全土で売りさばく計画を立てて、そしてその収益でバイトストーリーヘルスポーツセンターができました。この話をストウーデルさんから聞いたとき日本の知識人の方々は盛んに日本の福祉は遅れているとおっしゃって、とても自虐的な発言が多いんですけども、んでもない話だと、ノルウェーという福祉先進国と言われている国の人たちが日本の募金方法というものを学んで、そしてその施設を作ったという現実を我々はもつと誇ろうじゃないかと思いました。そこでこれをいたる所でお話するようになっています。

ですから例えば、資金集めというのはわが国の敗戦で疲弊してしまった国土の復興、それに伴ってなかなか福祉に手が回らなかったわけですから、行政体としては難しい部分を民間が中央募金会というものを作り上げて全国で基金を集めて福祉施設の用に供したわけですね。日本人が発明した一つのとてもおもしろいかつ有効な募金方法です。

ですから町田市全域を使って皆が努力をして、小学生にも協力をしてもらって、中学生、高校生、

皆さんそして入所者にもその家族も全員が協力して募金活動を行うということから我々はまず始めることが必要かもしれません。

その他にもう一つとても手っ取り早くお金を集める方法をいくつかお教えしますが、私がたびたびやってきた中の一つに、「ウエルフェアゴルフトーナメント」というのがあります。わざと私は「チャリティ」という言葉を使いません。「チャリティ」というと辞書では「慈善」と訳されてしまい、何か「施している」という意味合いが含まれていて好きではありません。「福祉」というのは直訳すると「ウエルフェア」ですから我々は「ウエルフェアゴルフトーナメント」とか「ウエルフェアコンサート」という言い方をします。

音楽会も、ついこの間郵便貯金ホールでジャズをテーマに柏朋会がコンサートをしました。まだ純益が計算されていませんけれども完売しましたので、結構純益は上がると思います。

これはホールの席数に影響しますがどんなに頑張ってもやはり出演者にある程度の謝礼をしたり、舞台装置その他に結構お金がかかりますのでなかなか純益を上げることは難しいんです

が、それでもこの二十五年間ずっと徹底的に出演者を口説いてノーギャランティで出て下さいということをお願いしてやってきました。

少ないときは百万ぐらい、多い時で三百万ぐらいは一日で稼ぐことができます。一日と言うか二時間半で稼ぐことができます。しかしこれは出演して下さる人たちの人数なんかによってかなり増減が激しいんですね。

それから「オークション」というのもあります。これは皆さん方は「クリスティーズ」とか「サザビーズ」というヨーロッパのオークションでいわゆる有名な絵画が売られたとかいう形でしかオークションということ聞かれてないのかもしれませんが、我々はこれを結構たくさんやってまして、例えばここでもしやるとするならば、誰か名人芸の司会者を連れてきてまして、そしてその人が値を吊り上げていくわけです。どういう物を出すかというと、例えば私が使っていたゴルフクラブ、ドライバーとパターを出しましょう。それから理事長はもし書が大変お上手ならば、ご自分の書を出しましょう。そういう風にして皆さんがいろいろな物を持ち寄ります。

もちろん中古品では困るので、皆が欲しがるようなものを皆が無償提供するんですね。そしてそれを司会者が最初の値段を設定して、会場の皆様方に売りつけるわけです。皆さんは福祉のため、あるいは施設団体のためですから、通常例えば「五千元から始めますよ」と言っても「俺はじゃあ五千五百円」とコールします。そうすると片方の人が「いや、六千円」という風にしてどんどん値を吊り上げていくわけですね。そしてもうそれ以上出ないという所でその人が落とすわけです。私の出品する物は結構高く売れるんです。

一番私の知っている物で高く売れたのはアメリカにジャック・ニクラウスという往年の名選手がいます。今も強く、さすがにリタイア寸前なんです。が、一世を風靡した帝王と言われた男がいます。彼がひょんなことから私にくれたパターがありました。それは彼が、確か四十六か七歳の時に全米プロというのに久しぶりに勝ったんですね。その時に使っていたデカパターでして、そのモデルをどういわけか私にプレゼントして下さいました。ニクラウスが優勝したパターだと思っ一所懸命私も使ってみました

すけど全然入らなかったものですから、倉庫に眠っていたんですね。

そこで青森県の体育協会を支援するためのオークションにかけました。そうしたら私のスキ―と山の仲間で鳴海先生という有名なお医者さんがいるんですが、彼はニクラウスが殿下にプレゼントして、殿下が使ったパターだというので絶対自分が落とすと言って、どの人がコールしてもその上、という風に値段が釣り上がっていったそうです。

そして私にしてみると、ニクラウスさんはただでくれたんですね。ニクラウスだってそれ自分が買ったんではなくてメーカーがニクラウスのために勝手に作ったはずなんです。だから只、只と来ているわけです。何の必要経費もかかっていません。せいぜい私の航空賃ぐらいしかかかってないわけですけども、それが確かスタートは司会者がいくらから始めましたかは忘れませんでした。それから三十万で鳴海先生が買い取ったそうです。それで未だに入りもしないのに先生は一所懸命使っておられます。

こういう風にして青森県知事さんの時は大変書がお上手だったのでちゃんと額に入った、揮

毫されたものをお出しになり、知事さんのファンがいて、何万円で落としていくんですね。

私はちょうどその時大きな地球儀が出ていたから娘が小さくて、必要だろうと思ったのでそれを吊り上げて、本当だったらせいぜいあれは数千円の物なんだろうけど、何万円という形で私は娘のために買い取って来ました。

それから新しいバーベキューセットが電気メーカーから提供されていまして、「家族で肉が焼けるな」と思ってこれも通常の定価の何倍かで買いました。毎年そこは大体二時間ぐらいのオークションをやるわけですが、オークションとさきほど申し上げたウエルフェアゴルフとが組合せになっています。オークションで何だかんだ言って二三百萬の純益が上がります。

そしてウエルフェアゴルフトーナメントで三萬ぐらい、ですから二日間であつという間に数百万が集まるわけですね。そういう風にして様々なお金を集める方法があります。

例えば私の本業であるスキーで、ウエルフェアのためにスキー大会やります、スキー講習会やりますと言っても誰も集まりません。お金も集まりませんが、不思議なことに日本人はゴルフ

フにはなぜかお金を平気でかけるんですね。「名門コースに連れて行ってくれ」というようなことを度々私は頼まれます。「高いですよ、ヴィジターフィーはいいんですか」と私が言うところ「いやかまいません、そこでプレーできるんだつたら一生の思い出になります」とおっしゃる。本当に皆どうしてか分かりませんが高額のヴィジターフィーでも平気です。

従ってそういった日本人の不可思議な風潮を利用して我々はゴルフトーナメントをします。例えば参加費を、東京だったら三万とか四万に設定しても大丈夫です。今名古屋で三万円かな、少し地方になると青森県では確か一万五千元、大阪だと高くて四万円ぐらいでやっています。これは参加費なんですね。ゴルフ場には事前に徹底して趣旨を話して、「ゴルフ場も福祉に関係して下さい」、「ご協力を下さい」と、だけどわれわれのいつもの方針として皆が損しては困るわけですね。

ですからゴルフ場には通常であればヴィジターフィーというものが設定されていてかなり高額な利益が乗せられていますけども、「それをすべてやめて下さい」と「会員と同じようなレヴ

エルでお金をとって下さい」というようなお願いをします。又ゴルフ場に入っているクラブハウスの食品の関係の会社の所にも日参をして「あなた方も儲けを考えないで食べるものを提供していただけませんか」と、飲料会社にも当然頼みに行く、ですから大塚製薬とかですね、サントリとかいろんな所に恐喝に行かなければいけないんですけど、ともかく全部が「実費で商売をして下さい」ということにします。そうすると彼らは実費ですから赤字にはならないんですね。儲けをやめてくれというだけの話です。

そういう風にしますと例えば仮に三萬の参加費を取ると、間違いなく一万とか一万五千のピンハネを主催者側はできます。もちろんゴルフ場側にもラウンドフィーというのは払います。それとキャディーフィーも払います。全部払います。それ以上に私たちがおもしろいことをしているのは、ゴルフの試合（１８ホールス）の中にはショートホールというのが４ホールあるんですね。そこは一打で乗せて二つのパットで回りなさいという、パー３というホールをショートホールと言います。ここで一回で乗らない人から全部罰金を取ります。千円です。そして今

申し上げた三打のバーで上がった人からはお祝儀の千円を戴く、それからパーティーというのがありまして一打少なく、つまり二打でホールアウトできた人からはダブルお祝儀を戴いています。

そして特に私の一緒に回っているパーティーの人はですね、一打で乗らない人から千円もらうわけだから、下手で二打でも乗らない場合があるわけですね、三打でも乗らない、そうしたらその分だけ千円を加算していくようなことをしていきます。大体百六十人が参加者のマキシママなんですけども、四ヶ所のSHでうまくいけば百万は楽にあります。結局うまい人もバ―とつても払わなきゃいけないんだし、下手な人は罰金を払わなきゃいけないんですからどこに転んでも払うことになっているんですね。

そのためには大変苦労をします。各ホールごとにヴォランティアの人たちにちゃんと募金箱を持ってもらいますし、計算をする人を置いておかなければなりませんし、その上炎天下で大変なのです。しかもここに居られるような高齢の方では誰もお金払ってくれませんので、若いミニスカートの女の子を口説いてにこにこさせると皆男の人がお金を入れるのです。

ですから若いヴォランティアたちにこういう形で協力してもらい、一石二鳥でもあるんです。お金も入るし、若い人たちに福祉に少しづつ絡んでもらうということ。いずれにせよそういうことをすると大体ショートホールでまあ九十万とか百万ぐらいい入りますから、例えば一万円ピンハネしただけでも百六十人だったら百六十万になるわけですから一万二千円ぐらいとればあつという間に二百万でしょ、そうするとやつぱ



り三百万ぐらいは皆が楽しみながらお金集めることができます。

この他にも沢山の方法があります。常陸宮妃殿下が総裁をなさっている「(社)動物福祉協会」というのは人間じゃなくて、ワンちゃん猫ちゃん、そういった動物の正しい飼育の仕方。あるいは実験動物、大学病院で人間のために猿だとか、モルモットやいろいろな小さい動物たちが実験動物に供されているわけです。その扱いが日本では非常に劣悪な状態が長かったです。

それを助けるということではイギリスで始まった運動ですけれども、人間のために切り刻まれていくわけですから、そういった声を出さない動物のためにもちゃんとした完璧な檻を作って上げるとか、寝床を作って上げるということに長年日本動物福祉協会というのは貢献してきました。ここでは年間通して毎年舞踏会をなさつて、巨額なお金を集められるのと同時にラッフル券というのを、何万枚とお作りになります。私はいつもそれを何百枚と買う役をしていますけども、数千万円というお金をあつという間に集めることができます。

ノウハウをお教えましたけども、皆さんの

やる気次第なんです。そして皆さんも一人一人自分もこの分担をちよつとだけでも協力しましょうと、例えばおじいちゃま、おばあちゃまたちを外で炎天下に街頭募金なんかさせたら申し訳ないと普通発想してしまいます。しかし、ここにおられる元氣なおじいちゃま、おばあちゃまがどこかの街の中で若い連中と一緒に「友愛荘の改築のためにお願いいたします」と言えば普通ノーマルな人間だったら「おじいちゃんそれだったら私も少し入れますよ」という形になると思いますね。ですからいろんな努力をこれからしていくべきですし、これは発想の転換で、この園長さん、やさしそうな顔をしておられますけども、やつぱりボスがどういう発想するかによって中もどんどん決まっていけます。父親が総裁している時と、私が総裁している時と友愛十字会は正直言つてがらつと変わりました。「爲せば成る、爲さねば成らぬ何事も、成らぬは人の爲さぬなりけり」というあの上杉鷹山の言葉が私はとても大好きです。まず国には国で一所懸命やつて欲しいし、行政には行政で一所懸命やつてもらいたいけれど、我々民間は民間なりに自助努力をして汗水垂らして地道に

背丈の範囲で努力するということがとても大切です。ですからその所を皆さん方もよく理解をして、「お金はどっから降ってくるもんだ」とか「措置費で常に面倒見てもらうもんだ」と言うだけではいつまでたっても満足な生活はできないと思います。私は全国区でこういった仕事を延々とやつてきたわけですから、友愛荘の皆様もこの二十五周年を期して「何か新しいことを始める」とおっしゃれば喜んで協力しますし、そのノウハウの伝授にまた度々来ます。そこで実行委員会を作つて本氣になつてやるということを皆さんがお決めになれば協力しましょう。この間十月三日に世田谷で運動会をやりました。あれも二十五周年を迎えました。感動的だったと思いますけど、友愛荘から何人かは出て下さったと思いますが、最初やる時はやつぱり大変でしたよ。私たちは運動部育ち、体育会育ちですから、一年を通じて常に体を鍛えていないと試合に勝てないという切羽詰まった命題がありますから、常に体を鍛えています。従つて総裁になつてすぐ友愛十字会で「体を動かすことをやろう」そのためには伝統的な運動会が日本にはあるのだから「運動会やりまし

よう」と。その時に一番困つたのは当時、友愛十字会の自治会も大変力強くて随分いろいろなことを言われました。「怪我をした場合の補償はちゃんと法人がとつてくれるんですか」とか様々なことがありましたけれども、「ちよつと待ちなさい」と「そういった問題じゃなくて体を鍛えるということは自分がやることだ」と「人様から強制されてやるんではなくて、自分が長生きしたければ、健康でいたければ常に脳みそも動かさなければいけないし、体の筋力も動かさなければいけない」。特に「障害がどこかにある場合、健常なる人たちに勝つためには人の二倍、五倍、十倍のトレーニングをしなければ追いつけませんよ」と、それから我々はつい敬老精神という言葉がありますから、おばあちゃま、おじいちゃまたちを見るとすぐ過保護にしています。現実には二十五年前はまだ嬰鑠としていた父親と母親もさすがに片方がもうすぐ八十五歳かな、そしてお袋のほうも七十七歳ですから本当にかなり高齢化してきました。そして私は喉を三度の癌で喉頭蓋という部分を切られていますし、左半回神経というのを切られているのでマイク

がないと大きい声が出ないんですね。親父は右が聞こえない、お袋は左が聞こえませんが親子三人の場合、怒鳴り合わないで聞こえなくなりました。それからお袋は人工関節を入れました、心筋梗塞の手術もしました。

今はとても元気でやっていますが、つい今日みたいな式典になりますと「お袋座るかい？」と言ってしまいます。それは一見親孝行のように聞こえますけど、本当はお袋のトレーニングのためにほっと立って歩いて動き回る必要がありますね。だから筋力を退化させない、筋力アップはもう我々の年代以上はできません、二十五歳ぐらいまでと言われています。私は五十三歳ですけど、今日皆さん方のように八十、七十の方であつてもさっきの百歳の方であつても、何にもしなければまず脳が退化する、次に筋力が退化します。

ですからお袋は一所懸命トレーニングをして、最初はもちろん杖をつきながら歩いていましたけども、今や見事にリハビリの効果があつて階段であつても一人で杖なしで歩けるようになりました。時々ちょっと気を抜くとストンと腰が落ちるので横にいるとき介護する長男としては

結構気が気ではないんですが、物理的に疲れたと見える時には座らせますが、そうでない時には「お袋歩けや」と言わないと駄目です。

ですから運動会を始めた大きな理由がそこにありました。最初は老人ホームから参加してくれた人たちは、日体大の長野先生のリードでフオークダンスを始めたんですが、誰も出ませんでしたね。「やったことがない」、「体を動かしたことがない」ということでしたけど「やってごらんなさいよ」と言つてかなり半強制的にやってみたら皆さんがおできになった。忘れもしませんけど、最初は凄かったですね。おばあちゃんだけのチームがあつて八人ぐらいで手をつないで「オクラホマミキサー」というのをやつたんですけど、皆ゼコゼコしておられました。

しかしその中の一人がちゃんと最後までできたので「やればできるじゃありませんか」と言つてそれから皆さんおばあちゃん同士の戦いみたいなのが始まつて、「あんなばあに負けるな」ということでお互いの切磋琢磨が始まりました。それから最初はフオークダンスぐらいしかおできにならないと思つていましたがそんなことはない。今やそれこそ「選抜リレー」の「老

人の部」にも、本当に「あれ死んじやうんじやないか」と我々を心配させるような凄い勢いで走つて下さる高齢者が出てきました。

やっぱり人間本当に「爲せば成る」だし、思い切つてやってみなければいけない。それから自分の責任で自分の健康管理をするという当たり前のことを皆がああ運動会の中で、二十五年間の中で覚えてくれたことが私はとても嬉しいんですね。何はともあれ誰一人として一度も大きな怪我人がいません。これはやっぱり皆の緊張感と一年間を通じて一所懸命運動会に合わせてくれるんだと思います。さっきも笑話をしたので、毎回体育会出身で、スキーが本職の健康管理のプロを自認している私が一番大きな怪我をしているんですね。突き指はするし、腰は痛めるし、それが一番大きな怪我で実際に私より見た目弱そうに見える方が余程強い結果で、本当に怪我人がいないのは嬉しいです。延べ人数だったら多分何万人になるんだろうと思うのに、重度の怪我人が誰もいないということは大いなことだと思いますね。

そういう風にして最初は発想の転換ということからこういった形で募金活動もあるし、いろ

んなお金集めの方法があるというお話をいたしました。そして運動会の実績の中で自分の健康管理は自分でしなければいけないということもお話しました。

あと日本の福祉でどうしても皆さんが知っておいて頂きたい事は、日本の福祉の一番遅れているところは、施設面とか予算面ではなくて、健全者と障害者、あるいは老人ホームの場合だったら高齢者と若年者との間にあるコミュニケーションギャップが大きい、これが一番大きな問題だという事です。

先ほどから度々出ているようないろいろな介護保険の問題とか措置費の問題、これは担当者と行政の人たちと政治家が真剣に突き詰めてベストの方法を執ってほしいと我々は熱望します。しかし民間の我々、友愛荘、あるいは友愛十字会として何をしなければいけないかと言ったならば、やはりここは特養ですから、高齢でしかも重複障害を持っていたりして体がなかなか動かないおじいちゃんとおばあちゃんが現存しているわけだから、そのことを世の中の人に広く知らしめて、その人たちの介護の仕方とか、その人たちの余生の楽しみ方をどういう風にする

ことが正しいのかということに対する啓蒙活動を広く皆にしていきたいと思います。

そのためにコミュニケーションギャップを埋めるためには一人一人の視診、問診、触診というのが必要だということを私は二十五年間言い続けてきました。例えば私は港区から来ましたけども、ここは町田市でお話を聞くと三十六万の人口があると伺いました。しかし日本人というのは集団主義ですから、町田市という所に一緒に住んでいるというところで安心感があると思いますけども以外や以外、町内の人同士は分かっていることが多いはずなんです。あるいは友愛荘という一つのグループの中も、もう何十年も一緒にいるといっても以外と日本人というのは相手に入り込んでいないことがありますから、というのは相手の傷口に触れてはいけないだろうとか、いろいろなことが日本にはあります。私は皇族ですからどうしても皆さん方ご遠慮があつて、皇族と言うのはお財布持っているのか持っていないのか聞くのは申し訳ないとかです、盛り返場には多分行けないだろうと思つて下さったり、誤解だらけなんです。そういった経済的なこと聞いちゃいけないだろうとか、

若い頃なんかよく「殿下はご不自由ですね、若い女の手も握れないんですよ」とよくいろんな所で言われたもんです。こっちは腹の中で笑っているわけですね、「ふざけるな」と。だけれどもそれも結局皆コミュニケーションギャップです。

つまり、皇族と国民との間にどうしても垣根があつて、お互いに腹を割って話すことがなかったわけですね。ですから情報公開なんて難しい言葉でなくて、聞けばいいんです。

例えば「殿下は何と何ができて、何と何ができないんですか」とか、「食道癌で六回も切られたそうですけど、食べるものは今何が食べられて何が食べられないんですか」と、そうすれば当然答えますよね「友愛荘の二十五周年に来ることができません」と。それからここに「泊まりがけで来て下さい」ということも事前に早めに半年も前に言つて下されば来ることができます。だけれども「住んで下さい」と言われても「それはちょっと困ります」、「私の家は向こうにあります」と。あるいは例えば「募金活動のためのノウハウのための会議がありますけども、それに出席してくれますか」「はい空いていれば行きま

す」ということになりますね。

その後に「こっちの老人ホームを視察してくれますか」それは「行けます」とか「行けません」とか。そういう風にして全部聞いてしまえばいいわけです。今日ここにいらっしやる入所の方々の代表の中でも「おじいちゃん聞こえるんですか、見えますか」、見える場合「どこまで見えますか」と聞きます。我々障害者のスキを教えてきましたから、例えば視覚障害といっても全盲も弱視も視野狭窄もあるわけですので、弱視と言われても「どこまで見えるのか」、これぐらいの天候だったらたぶん二メートルぐらい前しかボワーっと見えないっていう人もいるわけで、その代わりお天道さんがあるピーカンの日だったら三十メートルぐらい先まであったら物体として私が見えるという人もいますね。ですからそのためには「視覚障害と聞いたけどもあなたは全盲か弱視か視野狭窄か?」、弱視の場合「どこまで見えるのか」、視野狭窄だったら「どこが見えないのか」ということを聞かなければいけません。それから聾者だと言っても全聾の場合もあれば難聴の場合もありますね。それも生まれながらの聾者と途中で聞こえな

くなつた人として様々な違いがある、これは肢体障害でも内部疾患でも皆同じです。

特に癌の場合皆さん方気を付けたほうがいいと思うのは、(今日は記念品の中に私の「癌を語る」という本を入れて下さったそうで大変有難いんですが、それを読んで下さるとよく分かりますが) 癌ほど千差万別な予後の症状を呈するものはありませんということです。例えば障害者福祉の中であれば例えば「脳性小児麻痺」と



いう症状はそれも千差万別ではありますが、ある程度一定の法則を説明することができそうです。ポリオだったらこうなんです、それから難病の中の「骨形成不全」とか「筋ジストロフィー」とか「血友病」等々そういったものは概ね「こういった障害でございます」と、それから「脳溢血」とか「脳梗塞」とか「半身不随になつてしまった場合のリハビリはこういうことができます」ということが言えます。「アルツハイマー病」も千差万別です。「痴呆症」も様々な症状を見せますけども、それでもある程度説明ができます。

ところが癌だけは同じ食道癌を切ったと言ってもその予後というのは全部違ってきます、それはどうしてかという発病した時の年齢や、その人の持っている体力や、執刀した先生のテクニックや、切った部分や、リンパ節をどれだけ廓清したかということで全部違ってきてしまいます。

ですから同じ先生が同じ術式で切ったとしてもリンパ節の廓清の、私の場合は食道の周辺で百三十個廓清されたそうですが、その為に身体が随分と萎んでしまいましたけれども、転移を

防ぐためにそれだけのことをしました。しかしそれは四十五歳の私がとても体力があったことを先生方が見越したからやつたらいいですね。

違った人が私と同じ食道に一、五センチかそこらの癌が発生したとして、私の先生が皆さん方のどなたかを切るとなっても、多分私と同じことはしないはずですよ。となると同じ執刀医で同じ術式であっても予後は絶対違ってくるんですね。これが胃癌でも膵臓癌でも腎臓癌でも全部違ってしまう。

ですからそういった意味で癌患者をお見舞になる時に、視診、問診、触診が必要です。「私も実は食道癌やりました。あなたも食道切ったそうだけどう？」という風に聞いていかないと、「どこ切ったの?」、「どの部分?」下部食道、胸部食道、頸部食道?と聞いていかないと、それから「今何が食べられるの?」とか「まだ点滴かい?」とか「もう何か固形物は食べたかい?」という風にどんどん質問していくわけですね。

それからリハビリで「どこまで動きますか?」と全部聞いていってそれで先生方の背景説明聞かないとその人の予後に対して何にもアドヴァ

イスができないんですね。私は一カ月と十日間入院していましたが、降るように見舞い客が来てくれたのは嬉しいし、びっくりしました。がその中の、十人に一人ぐらいは「実は私も癌でした」と言う人でした。その人たちは得意満面で自分の経験談を喋られます。私は最初ですから当然のことながら全部一所懸命聞くんですね。ところが後で考えてみたら全部違いました。ですからこれは全然役に立たない。ここでも視診、問診、触診の必要性というものがとてもあります。

それからもう一つ我々がとても大切にしているのが、部門別に福祉というものは考えなければいけないということで、これも日本国中で言い続けています。部門別というのは部分別と言ってもいいんですが、私は癌ということではいろんな所を切られていますので、そういった意味ではその部分はどうにもならない重度障害なわけですね。体内移植もしていますし、食道が無いですから胃がその代わりをしています。例えば、真平らに寝ると当然のことながら入った物がそのままストレートに戻ってきてしまうので常時スロップを使ってななめに寝るはめになっています。

その上、神経が切られています。そういった意味でできることとできないことがある程度決まってきました。ですからそういう部分は重度障害であることを認めるべきです。

それからここは特養ですからまず高齢であるということは認めるべきです。さらにそこに障害があるという現実がある場合その障害が何かということもこれもまた医学的な問題として、認めてしまうべきですね。

ただし先ほど申し上げたように、運動会で本当に選抜リレーで走ってくれるようなおじいちゃん、おばあちゃんの中にはいらつしやるわけだから、体育館の中では健常な部分というのは確かにあるわけですね。

それから脳みそは、つまり頭の回転のいい方がいらつしやるはずですよ。ですから高齢で重複障害を持っていたとしても、残存機能の中にどれだけ健常な部分があるかということを徹底的に検証する必要があります。同じように健常者と言われている人たち、五体満足と言われている人たちの中にどれだけメンタルにおかしな人がいるかということも我々は考え直す必要があります。分け方ですが例えば社会的にきちんと健常で

あるかどうかという分け方もありますね。政治的にどうか、経済的にどうか、これなんか特に経済的な部分で、今バブルというのがはじけて、「大変だ、大変だ」と皆さんおっしゃっている。その中でも地道にちゃんと大中小様々な企業をちゃんと経営なさっている方もいれば、バブルの時に何でもありということで、本業以外の副業に手を出されて間口を広げたために今どうにもならないという人たちもいますね。

私の親友たちの中にも実は倒産してついに我々と一緒に楽しく遊べなくなったのが何人もいます。本当に困ってしまいます。それまで何十年も同じように遊んできて楽しんできて悩んできて、いろんな物事を一緒にしてきましたが、そうやってしまうと社会の表舞台から引き下がらざるを得ないんですね。それまで彼らは社長だとか専務、常務だとか言って大きな顔をしていたから大健常でしたが、実際に銀行取引停止になってしまふ、倒産してしまふ、管財人が入る等々になればこれは当然重度障害になります。一番大きいのは皆さんも新聞等で度々ご覧になったと思うんですけども日本長期信用銀行というのがおかしくなりました。あの一番の大ボ

スの杉浦さんというのは長いこと私の家の財政顧問でしたから今とっても私は「うう……」と言うしかないんですね。すばらしいおじちゃんでありまして、学習院の先輩でし、いい人なんです。しかしクルルに見てもやつぱり彼の責任大なりというところはどうしてもあると思いますし、そうなるとうんの数年前まで大健常でありましたけども、ビジネスフィールドにおいては彼は遂に重度障害を被ってしまったと言わざるを得ないわけですね。

こういう風にして家庭の中ではどうだろうということも皆さんお考え下さい。そしてこの園の中では見事に働いて下さる方がいらつしやうたとしても、ご自分の家庭に戻られたら善き母親でない、善き父親でない、善き息子でない、善き娘でないということになったならばそこではその障害があるということになってしまいます。私の申し上げたいことは、日本では厚生行政の中でいわゆる医学的な判断で身障手帳があったり、療育手帳を持っていると障害者で、それ以外は健常だという二つの分け方を何百年もしてきたわけです。それはそれである部分正しいんですが、今後福祉の底上げをする、全員が福

祉に理解を示すためには、そういう分け方をしている限りいつまでたってもコミュニケーションギャップがとれません。

私にも障害部分が沢山あることを認めますので、皆さん方にも障害部分が沢山あるということとを理解して「皆同じじゃないか」と、例えば高齢になって、いつかは友愛荘にお世話になるということを考えなければいけないわけですね。それから今日ここでせっかくお祝いの会やっているのに、出たとたんに交通事故で一卷の終わりになるかもしれません。これだけ動き回っている社会、世界ですからいつ我々に重大なる障害が来るか分からないんですね。

ですからそういった意味では私が申し上げたように障害が健常かということとは部門別に一つひとつチェックしていく。全部頭の天辺から、つま先までチェックして下さい。その中には人格とか、性格みたいなことを入れても結構です。それから運動能力や音楽の能力や様々なチェックの仕方があると思います。

昔から私は「古老」という言葉が好きです。どんな町にもどんな村にも古老が何人か居てその人たちに若い連中は皆質問したものだと思

ます。そして歴史的なその村の成り立ちや、その村人のあるべき姿を古老たちに教わりながら若者たちは新しいことをやっていったわけですね。

ですから老人サイドにも「もう施設に入っちゃったから皆の世話を受けて俺たちは何もできない」なんて変なこと考えないで、ここにはこの新たな人生があると考えて前向きに生きるという姿勢が必要だろうと思いますし、我々もおじいちゃん、おばあちゃんたちから得るものを取りたい。それから差し上げるものは差し上げ、常にギブアンドテイクでいかないと駄目。そういった発想の転換ということも必要だと思っています。

繰り返しになりますが、相手を見たときには健常障害問わなくて結構です。第三者とつき合うときは視診、問診、触診から始まる、遠慮をしないで下さい。

そして障害か健常かを区別するということは部門別に考える事です。そうすると皆さん方多分間違いない自分の健常部分が少ないということに気がつくと思います。

例えば私はスキー教師ですから雪上に出た場合には、多分この中で一人も私に付いて来られ

ないと思いますね。つまり陸上では何とか追いついて来ておられるけど、雪上では何にもできないということになります。つまり雪上の重度障害になります。

ところが友愛十字会ではスキー部を作っても二十五年経ちました。皆凄い上手いのがいますよ。そうするとその彼らはどんなに重度障害があっても雪上では立派なスキーヤーになりますね。反対に五体満足でオリンピックに出た人でもスキー場で、すってんころりんする人たちは雪上の障害があると言わざるを得ない。同じように、山で強い人、海で強い人、陸で強い人、仕事に強い人、学問で強い人等々、いろいろな分け方があるのだと思いますね。

私は講師として喋ることは得意で、福祉の現場監督で頑張ってきましたからその部分では健常でしょうけど、父親のように偉大なる古代オリエント史の学者という観点から見たら重度障害もいいところで、どうして学習院を卒業できたか未だに分かりませんね。勉強嫌いでしたから。

そういう見方もあるわけですね。親父は確かに学問的に優秀です。ただし下世話なこと全然分かりませんから、同じ総裁をやっているてもき

つと親父の時代にはこんな講演を親父はやらなかったと思います。やっても、難しいメソポタミアの話何かでしょう。

ですからお互い得手不得手ということがあると思います。もつと分かりやすく言えば、私のこの辺のこの髪が薄くなって子供たちにいつも馬鹿にされますが、髪の毛がふさふさしている人と、薄くなっちゃった人、禿げてる人という風に以外と男の中ではいろいろなこと言うわけです。それから背が高い人、低い人、太っている人、痩せている人、胴長短足の人、足の長い人、センスのいい人悪い人、まあいろんな分け方があります。

そういった意味で、簡単な言い方をすれば「すべての人間、人類は障害の部分をつくも身体の中に持っていて、あるいは心の中に持っていて、尚且つ健常なる部分をも併せ持っていて生きていく」というのが正解だと思います。

老人ホームの方々は、自分たちは高齢化しちやうとどうにもならないなんていじけないで、その部分は認めてしまつて、それ以外にできる部分、沢山の経験があるわけです。我々は所詮五十三年の経験しかないんですが皆さん方は

六十年、七十年、八十年、さっきのおばあちゃん百一歳とうかがいましたから途方もない、とても私なんか勝てそうもない経験があるはずです。あのおばあちゃんの有効活用の方法というのがいくらでもあるはずなんです。そういう見方をしましょう。それが部門別福祉の考え方です。

まとめに入りますが、皆さん方ここには全員福祉の関係者がいらつしやるから言うまでもないんですけども、政府というのは正しい福祉政策というのを作っていただくしかありません。行政は今日も来て下さった方々にもう一度お願いをしておきますが正しい分配とか、正しい施設の設置、そういったことを一所懸命やっていただくことです。

我々友愛十字会というのは民間法人ですから、その民間法人の関係者が何ができるかと言ったら、私が今日お話をしたコミュニケーションギャップを何とかして日本から取り去るというための啓蒙活動をするしかない。

啓蒙活動というところがちょっと難しすぎるかもしれませんが、要は説明です。PRをしていく、我々とはかくこの福祉、障害者問題を恥ずかし

いものとか考えて隠しがりますけど、そうではなくて事実をそのまま赤裸々に表明しないことには人々からのサポートも得られません。私は癌を発表しましたから世の中の私の仲間たちが「そりや大変だ」と言って私を助けに来てくれました。

それと同じようにあらゆる障害、高齢者の問題はこういう風な問題がありますということを経験開示しなければいけません。その上で皆で



意見交換をしてベストなことをする。そのための啓蒙活動、これを皆様方が徹底してやるということが民間に科せられた使命だと思います。お願いします。

そのためにも今日初めて私の話を聞いて下さった方はそれを周りの方々に、せめて三人に話してみして下さい。そして彼はこういうことを言っていたけどそれは正しいか間違っているか、自分たちはこれからどう考えるかという議論の種にしていきたいと思っています。そうするとここに概ね数十人の方がいらつしやいます、あつという間に町田市の啓蒙活動というのは広がっていくと思います。

一人一人が街の福祉家になる必要があります。「あれは友愛十字会の専門家に任せておこう」というだけではいつまでたっても駄目です。その証拠に私がさつきからくどく申し上げているように皆さん方が、全員がある意味で障害者ですし、ある意味で健常者でもあるからです。そういった意味で日本の福祉の底上げの為にぜひ皆様方が町の福祉家になつていただきたい。そのために啓蒙活動をしていただきたいと思います。どうもご静聴ありがとうございます。

善意のかずかず

次の方々から善意の金品のご寄贈を頂き、また、利用者をご慰問下さいました。ここに心から御礼を申し上げます。

(平成十一年十月一日～平成十二年三月三十一日まで)

(寄附金) 敬称略 あゝお順

○世田谷関係

圓光寺内藤壽昭、関東ボウリング場協会、鎌田謹一郎、(株)ガードインフォメーションサービス代表取締役鈴木弘毅、祐教会教会学校、菊地偉雄、昭和女子大学付属昭和中学校・高等学校生徒会、島崎富枝、白川富子、ジャパンレディスボウリングクラブ、J A 東京千歳地区女性部、鈴木磯平、世田谷区在宅サービス部管理課長入野宏、(株)世田谷サービス公社、世田谷区立桜上水福祉園施設長笹谷亨江、世田谷ゲートボール協会、世田谷区高齢者クラブ連合会、田中省順、

手塚久子、東急弘潤会、東京福祉専門学校、南部自動車(株)代表取締役山本晴之介、長岡タイ、長岐妙子、沼尻善四郎、沼宮内園男、畑中克仁、ヒロ代表取締役雨宮弘和、藤蔭静照、松下千勢子

○友愛荘

相山悦子、石澤恭子、伊藤保義、小川美子、坂口豊子、桜台保育園長朝倉良子、佐藤百合子、清水達三、寿量寺住職戸田周良、末永盛士、菅野昭正、図師町内会、図師馬廐講中、世田谷区在宅福祉部長、世田谷区社会福祉協議会、世田谷区ふれあい公社、鶴川サナトリウム病院、天理教北多摩支部、東京紀尾井町ライオンズクラブ、

東京都社会福祉協議会、東京都町田福祉園、内藤壽昭、ニーズセンタール花の家、日本基督教団小石川明星教会、日本チャリティ協会、野口シズヨ、萩原八郎、橋本建夫、福音会、ぶどうの会、ボーイスカウト町田第三団、本田紀子、町田市、町田市在宅サービス公社大貫通、町田市社会福祉協議会鈴木喜八郎、みぎわホーム弥生会

(寄附物品) 敬称略 あゝお順

○世田谷関係

キリンビール(株)、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団、東京都宅地建物取引業協会、東京善意銀行、日本アムウェイ(株)、報知社会福祉事業団

○友愛荘

(株)石田潮商店、(株)光洋、キリンビール(株)、佐藤博、東京都麺類協同組合、安田信託銀行、米屋(株)、楽農会

(慰問) 敬称略 あゝお順

○世田谷関係

祐幼稚園(クリスマス会、子供会、卒園式等)、白石健(三味線演奏)、目黒星美学園小学部(演劇・ゲーム等)、山野小学校合唱部(演劇・ゲーム)

○友愛荘

コール忠生(コーラス)、フラダンスひまわりの会(フラダンス)、町田ときわ保育園(歌・お遊戯)、マンドリン・ギター同好会(マンドリン演奏)

(招待) 敬称略 あゝお順

○世田谷関係

東京善意銀行(社会福祉大相撲)、(株)ニッポン放送(JOMOCUP '99)

○東京都聴覚障害者

生活支援センター

ダイヤモンドコンピューターサービ
ス(株)「プロ野球ヤクルト公式戦」
(株)レディスレジェントプロレスリン
グ「LPLPW女子プロレスリング」

ご助成御礼

平成十二年三月三十一日、友愛
園の入所者処遇向上を図るための
設備として、次のご助成をいただ
きました。

ここに、心から御礼を申し上げ
ます。

○公益信託佐々木記念障害者

援助基金様

介助入浴用椅子

「シャワーキヤリ」 一台

友愛十字会主要行事

平成11・10・11・12・3・31

10・1 風船バレーボール大会
(荘)
10・3 合同運動会(世田谷区立

10・6	紅葉昼食会(荘)	12・1	ブ・ユー(聴)	1・18	教養講座(介護保険制度 と障害者施策との関係に ついて)(館・園)
10・10	ハイキング(山梨県) (聴)	12・8	利用者とホームとの懇談 会(荘)	2・2	消火訓練(聴)
10・13	バスハイク(荘)	12・10	クリスマス会(友デ)	2・2	節分(砧ホ)
10・15	愛のコンサート(メルパ ルクホール)(世田谷地 区自由参加)	12・15	ときわ保育園とのクリス マス交歓会(荘)	2・3	豆まき(友ホ)
10・16	愛のステージ(イイノホ ール)(館・園)	12・16	年末忘れ・クリスマス会 (友ホ)	2・3	節分(砧デ)
10・23	総合防災訓練(聴)	12・17	年末懇親パーティー(館 ・園・コ)	2・4	処遇懇談会(館・園)
10・24	友愛ふれあい祭り(世田 谷地区施設)	12・18	年末お楽しみ会(砧 デ)	2・11	不発弾処理避難(板橋区 エコポリスセンター)
10・31	映画会「マネーじゃの森」 (聴)	12・20	年忘れの会	2・15	生活講座(聴)
11・1	文化祭(荘)	12・20	クリスマスと年忘れの集 い(荘)(砧ホ)	2・18	バスハイク(府中郷土の 森)(友デ)
11・4	開園25周年記念式典 (荘)	12・22	クリスマス会(南庭)(友ホ)	2・24	スキー教室(NAS PASキーガーデン・湯 沢)(館・園)
11・9	世田谷文学館見学 (砧デ)	12・28	餅つき会(新年会)(友ホ)	2・25	防災訓練(聴)
11・12	よりどりランチ(友ホ)	12・31	クリスマス会(聴)	3・1	ひな祭り(荘)(砧ホ)
11・17	処遇懇談会(館・園)	1・1	新年祝賀会 (友ホ)(砧ホ)	3・2	ひな祭り(砧デ)
11・18	観劇(明治座)(友ホ)	1・4	新年祝賀の集い(荘)	3・3	ひな祭り
11・18、21	映画鑑賞「アイ・ラ ン」	1・4	新年会(砧デ)	3・5	耳の日記念文化祭(三田 ポウリング大会(横浜ラ ボール)(友デ)

3・16 保健衛生講話（友ホ）
3・19 春の彼岸法要（友ホ）
第17回家族懇談会（砧ホ）

3・22 春季彼岸法要

3・24 運営懇談会（コ）
3・29 終了式（友デ）
3・30 給食懇談会（館・園）
コーラス鑑賞（砧デ）

（注）館（世田谷更生館）
園（友愛園）
聴（東京都聴覚障害者生活支援センター）
友デ（友愛デイサービスセンター）
コ（コーポ友愛）
友ホ（友愛ホーム）
荘（友愛荘）
砧ホ（砧ホーム）
砧デ（砧デイサービスセンター）

職員異動

平成11.10.21.12.4.1

○世田谷更生館

友愛ホームより配置換

調理員 河原誠治 12.1.1

砧ホームより配置換

栄養士 川嶋知子 12.4.1

調理員 志藤洋子 12.4.1

友愛ホームへ配置換

調理員 川崎美知子 12.1.1

砧ホームへ配置換

栄養士 関谷 勉 12.4.1

○友愛園

採用寮 父内田泰一郎 12.4.1

退職寮 母渡部公江 12.3.31

○友愛デイサービスセンター

採用寮 母中村浩巳 12.1.1

指導員 西澤三枝 12.4.1

看護婦 武井艶子 12.4.1

退職寮 母野間紀子 11.12.31

看護婦 今村昌美 12.3.31

砧在宅介護支援センターへ配置換

指導員 山本恵理 12.4.1

○友愛ホーム

退職 調理員 松井禮子 12.3.31

調理員 岩瀬明子 12.3.31

世田谷更生館より配置換

調理員 川崎美知子 12.1.1

世田谷更生館へ配置換

調理員 河原誠治 12.1.1

○友愛荘

退職 看護婦 赤石沢末子 12.3.31

○砧ホーム

採用 施設長 沼田 修 12.4.1

寮 母橋爪麻祈子 12.4.1

退職 施設長 芦名久吉 12.3.31

寮 父佐々木 仁 12.3.31

寮 母内田美奈恵 12.3.31

世田谷更生館より配置換

栄養士 関谷 勉 12.4.1

砧デイサービスセンターより配置換

寮 父松原 巧 12.4.1

寮 父島尻大輔 12.4.1

寮 母野口かおり 12.4.1

世田谷更生館へ配置換

栄養士 川嶋知子 12.4.1

調理員 志藤洋子 12.4.1

○砧デイサービスセンター

採用寮 父平山憲一 12.3.1

寮 母須藤有紀 12.3.1

調理員 滝澤範子 12.4.1

退職寮 母林 好子 12.1.31

寮 母土生クルミ 12.2.29

寮 母関野和美 12.2.29

調理員 内沼 章 12.3.15

相談員 川岸一徳 12.3.31

砧在宅介護支援センターより配置換

相談員 服部久雄 12.4.1

砧ホームへ配置換

寮 父松原 巧 12.4.1

寮 父島尻大輔 12.4.1

寮 母野口かおり 12.4.1

○砧在宅介護支援センター

友愛デイサービスセンターより配置換

相談員 山本恵理 12.4.1

ゆうあい

平成十二年十月一日発行
発行 社会福祉法人 友愛十字会
発行人 石井 晃

〒157-8575 東京都世田谷区砧

三丁目九番十一号
電話（〇三）三四二六三二六一